

# TALKPOINT ガイド

- 1) TALKPOINT とは
- 2) TALKPOINT の目的
- 3) 教育現場での使用例
- 4) 相手教師との連携
- 5) 詳しい研究

## 1) TALKPOINT とは

英語圏で日本語を学ぶ学生と、日本で英語を学ぶ学生とが、インターネットを通じて、お互いに提示された状況にどのように対処するか、お互いの現地語でポストし、それについて比較、分析し、ディスカッションができる場を提供しています。

また、研究者、教師のために、学生のポストした生データも個人が特定されない形で提供されます。

## 2) TALKPOINT の目的

これらの目的のために TALKPOINT は作成されています。

- ① 学習者（外国語（英語・日本語）を学ぶ人々）の文化的アウェアネスを高めること
- ② 学習者の語用論的なスキルやアウェアネスを高めること
- ③ 学習者に、目標言語の母語話者からのインプットを受けさせること
- ④ 学習者に、それぞれの言語の違いと共に様々な共通の要素を見つけさせること
- ⑤ 学習者に、目標言語の母語話者と直接インターアクションをさせること
- ⑥ 言語教師に、母語話者の生データを容易に入手させること
- ⑦ 社会言語学研究者に、母語話者の生データを容易に入手させること

## 3) 教育現場での使用例

\* サイトの使用方法については、トップページから「サイトの使い方のご紹介(Site Tutorial)」、または、画面下にある「TALKPOINT について(About Talkpoint)」のリンクをクリックし、ヘルプのファイルを参照ください。

教育現場での使用方法については、様々な使い方が考えられます。

ここでは、例を紹介します。

これは英語圏の日本語のクラスの例ですが、もちろん逆のケースにも応用できます。

(1) 前作業（1時間目（約35分））：

目標：言語の文化的、社会的アスペクトの重要性に気づかせる。スピーチ・アクトを行う際の話し方や話し手の期待の共通点・相違点に気づかせる。

方法：①「テニスに誘う」というシチュエーションを読ませる。

②このシチュエーションで英語で何と云うか学生に言わせてみる。

③日本語と英語のアウトプットを音読させる（必要があれば語彙表を付ける）。（このアウトプットは日本人の大学生（英語専門）とアメリカの大学生（日本語履修中）がオンラインでシチュエーションを読み、何と言うかをタイプして掲示板に載せたものである。詳しくは

<http://www.talkpoint.org/research/yamanaka2003.html> 参照)

④グループで共通点・相違点についてディスカッションをさせる。

⑤ディスカッションしたことをクラスにレポートさせる。

⑥宿題として、考えたことを簡単にまとめて2時間目に提出させる。

教材：ハンドアウト

"A week ago, you talked with your friend and invited him/her to play tennis together with your other friends on this coming Saturday. The friend said s/he wants to come. It's Friday night now. You called him/her to talk about tomorrow."

英語の例

1. 女性、アメリカ、20代：Wanted to see if we were still on for tomorrow? No worries if you cannot...
2. 男性、アメリカ、10代：What's up man? ... Cool, cool, Yeah, not too much going on here... Yeah, well, I was just calling to see if you're still up for tennis tomorrow... Great, we're meeting at 1 at the courts... You need a ride?... OK, then I'll just see you there.
3. 男性、アメリカ、10代：Hi, Tom, I was just wondering if you still wanted to play tennis tomorrow. If so, let's meet up at the courts at around 11. Sound good? See you tomorrow!
4. 男性、アメリカ、30代：Hey bud, you still up for some tennis tomorrow? Those guys'll be by here at about 9:30. You want to meet us here or what? Okay, see you at the courts at about 10 then. No, you don't need to wear those little pompom socks. Alright, see you tomorrow.
5. 女性、20代：Hey, Lingling, do you still want to go to play tennis with us tomorrow morning? There are three more of my friends coming, two guys and one girl from BU. If you still want to, let's meet at the courts around 10pm. See you then.
6. 女性、アメリカ、10代：Hi hi! I was calling to see if we're still on for tomorrow [wait for answer] Cool. Do you want to meet at 10 then? [wait for answer] Great, I'll see you tomorrow!
7. 男性、中国、30代：Hi, I am calling you to check if you still wanna go for tennis with us tomorrow, could you please give me a confirmation? Hope you can come.

日本語の例

1. 女性、20代：もしもし？わたし。明日のことで電話したんだけど、（相手：うんうん）どうしょっか？
2. 男性、20代、神戸：もしもし。お疲れ～。あんな、こないだ言ったテニスのことやけど、明日〇時に〇〇で集合するけど、大丈夫？ほな、また明日な。
3. 男性、20代：もしもし。おれだけ。この前話したテニスの件覚えてる？明日行ける？じゃあ明日迎えにいくよ。また明日出る前に電話する。
4. 男性、20代：おう、俺。あの一明日のテニスの件だけ、～時から～ですることになったから。
5. 男性、20代、大阪：もしもし？ああ、俺やけど。あの、覚えてる？明日テニスやで。～時に～でやるけど、大丈夫？うん、ほなまた明日な。
6. 女性、20代、広島：こんばんは。あのねー、明日テニスなの、覚えてる？うちの友達もくるんだけどいい？ラケットとか忘れないでね。

7. 女性、30代：先週話したテニスの件なんだけど、他の友達明日いって。そっ  
ちも大丈夫かな？

(2) 本作業（2時間目（約30分+TALKPOINT投稿・ディスカッション）

目標：前作業のクラスの後、提出されたクラスメートの分析を紹介し、  
自分が気づかなかった点に注意を向け、実際の TALKPOINT  
プロジェクトに備える。

実際にプロジェクトを行い、日本人の学生からの直接のインプ  
トを受け、また直接掲示板を通じて意見を交換させる。

方法：①教師は、学生が書いた分析をあらかじめまとめたハンドアウト  
を配り、クラスでそれを学生に読ませる。

②その他に考えていたことやその分析を読んで考えたことがある  
か聞く。または、グループでディスカッションさせる。

③グループディスカッションの場合何を話したかレポートさせる。

④今度は書いたものではなく、実際に日本の同年代の学生とイン  
ターネットを使って、プロジェクトをしてみること、どのように  
サイトを使うか紹介する（ここでは2つの謝るシチュエーション  
を使用）。

⑤家で投稿、ディスカッションをさせる。（あらかじめ相手教師  
と時間枠を設定しておく。時差に注意し数日の余裕を持たせる）

注意：相違点にばかり注意が行きがちなので、共通点にも着目させる。

教材：ハンドアウト（これはある大学のクラスでの実際の例（文法ミス  
は訂正済み・クラスで習っていない言葉を使ったものには英訳を  
つけてある））

クラスメートの分析の例 ―テニスに誘う確認の電話―

1) 初めに、日本人、特に女の日本人の話し方はアメリカ人のより丁寧だ。みんなは日  
常の言語を使っているが、日本人は時々もっと丁寧な言葉を使うみたいだ。

さらに、他の友達を連れていきたくかったら、アメリカ人は「他の友達も行く」という  
ことしか言わないけど、日本人は相手の許可(permission)を求める。

最後の違いは、前に話した約束に対して、日本人とアメリカ人は別の考え方がある  
ということだ。日本人が電話をしたら、約束はもう決まっているが思い出させるために電  
話するという気持ちがある。逆に、アメリカ人は約束がないだけでなく、また誘いたい  
ので電話をする。

日本に行って友達と一緒に何かをしたかったら、この違いに気がついた方がいいと思  
う。

2) 一度そうしようと言っておいたことについて確認したり、もっと詳しい計画を一緒  
に決めたりするため話をする場合、アメリカ人は普通前言ったことについて今も同じ気  
持ちを持っているかどうかを相手に聞くことから始める。これはもし都合が悪くなっ  
たら前の約束を取り消すことができるから心配しないでという意味だから、相手に拒絶  
(refusal)や取り消し(cancel)をしやすくしてあげる配慮(consideration; warm treatment)であ  
る。しかし、日本人は普通、前の約束を気軽に(casually)取り消すことは相手に失礼だと思  
うので、誘う側も約束そのものに対して再度(again)相手の選択(choice)を問うこともま  
た失礼だと思って、しない。

3) 英語と日本語を使っている人にはいろいろな違いがあるけど、一つの面白い違いは、英語と日本語のトピック紹介だと思う。英語では、テニスについて話す前は、ほかの関係ないトピックについて話していいですけど、日本語ではちゃんとテニスのトピックをはじめから紹介するのは普通かもしれない。もちろん英語で話したら丁寧さはいらなくても、日本人は丁寧さについて考えなければならない。例えば、日本人が自分の紹介をすることは多いけど、アメリカ人はあまりしない。例えば、アメリカ人はあまり”It’s me”と言っていない。

4) 日本で、「テニスをまだしたい？」より「テニス、どうしよう？」の方が良く使われている。多分日本でもう決まったことを変更<sup>へんこう</sup>(change)するのは失礼だと思う。それに、アメリカの聞き方は拒否したかったら、直接「したくない」と言わなければならないので、あんまり直接拒否しない日本人にとって、難しいかもしれない。

5) 会う時を決める時、アメリカ人の電話した人は相手の都合を心配もしないで自分で時を決める。逆に、日本人はいつも「大丈夫」等と聞いて、会う時を決めるものだ。アメリカではイニシアチブは大切だが、日本では、相手と決めることは正しいようだ。また、面白いことに、文は短すぎて、丁寧ではないようだから、日本の男性の話し方はアメリカ人より冷たいようだ。

6) 英語の例の中に二つの中国人の答えがあった。他の英語の答えと比べると、二人の答えは形式的だ。

英語の例ではあいさつしてから質問する。テニスの計画はまだ決まっていないようだ。逆に、日本語の例ではテニスの計画はもう決まったから、電話をした目的は時間と場所を決めることだ。

英語の例では質問するからその時断ることがまだできる。

日本語の例はカジュアル日本語を使うけど、まだ丁寧だ。ある時英語の例は丁寧ではない。

### TALKPOINT の使い方のインストラクション

ウェブサイト画面下の About Talkpoint (TALKPOINT について) のリンクをクリックすると、リソースの下に既成のインストラクション・ファイル(MS Word)があります。自分のクラス用に編集し、使うことができます。あらかじめ、相手教師と設定しておいた時期に投稿、オンライン掲示板ディスカッションを行わせられるようにします。

#### (3) 後作業 (約 40 分)

目標：実際に掲示板で話し合われたトピックを使い、それについてクラス全体で考え、さらに言語の文化的・語用論的アスペクトへのアウェアネスを高める。

方法：①クラスでもう一度、投稿メッセージをいくつか読ませる。

②あらかじめ教師が抜粋・分析したコメントについてクラスで考えてみる。(このクラスではハンドアウトにあるように2つの日本人のコメントを使い、視点に違いがあるかをグループでタスクをさせながら検証させ、ステレオタイプについてどう思うか、また掲示板で盛んに話されていた「遅れた時間がもう少し長かったら」「相手が目上だったら」どうなるかということについてもフィードバックを行った。)

注意：言語の表面上からだけでなく、例えば日本では電車が時間通りに  
来るという物理的な理由が言語活動に反映していることもある。  
教材：ハンドアウト（実際の投稿・コメント例を使用しています）

友達との待ち合わせに数分遅刻 ー投稿

1, 日本（中国）、男性、20代

ごめん、ごめん、遅れてしも一たわ！ちょい電車が遅れてからさ。結構待った？ごめんね。んじゃいこっか！（しも一たわ：しまったよ（方言）、ちょい：ちょっと、てからさ：たからね（方言）、んじゃ：じゃあ、いこっか：行こうか）

2, 日本（東海）、男性、20代

わりわりわり、電車乗り遅れてまってさー。いい感じに腹減ってきたわー。（わり：わるい、遅れてまって：遅れてしまって）

3, 日本（近畿）、男性、20代

ごめんね、遅れて。家に忘れ物して、電車を一本乗り遅れてしまってさ。

4, 日本（中国）、男性、20代

ごめん、少し遅れた。

5, 日本（九州）、男性、20代

ごめんごめん。電車乗り遅れちゃって。お詫<sup>わ</sup>びにデザートでもおごるから許して。（お詫<sup>わ</sup>び：apology、おごる：to treat）

6, 日本（中国）、女性、10代

ごめーん!!! 今日、電車一本乗り遅れてしまって遅れてしまったんよ。ほんと！ごめんね！

7, 日本（四国）、男性、20代

いやーいやーごめん、5分遅れたわ。どんくらい待った。（どんくらい：どのくらい）

8, 日本（中国）、男性、20代

ごめん。電車乗り遅れた。待った？すまん。（すまん：ごめん（カジュアル（男）））

9, 日本（中国）、女性、20代

ごめーん。一本電車に乗り遅れたんよ。ほんまごめんな。どれくらい待った？（遅れたんよ：遅れたのよ（方言）、ほんま：本当に（方言））

10, 日本（九州）、男性、20代

マジごめん、出るの遅くなって電車に乗り遅れたんよ。（マジ：本当に（カジュアル）、遅れたんよ：遅れたんだよ）

11, United States、女性、20代

Oh my gosh! I'm so sorry! I'm such an idiot! I totally planned on taking the 11:45 train but I missed it and the next train didn't come until 11:55. I hope you didn't wait long. Are you hungry?

12, United States、女性、20代

Hi! How are you? It's really good to see you. Sorry I am a bit late, I hope you haven't been waiting too long. I can't wait to eat. :)

13, United States、男性、20代

Sorry about that. I hope you haven't been waiting long--I screwed up and missed my train.

14, United States、男性、20代

Hey! Sorry I'm late, but I missed the train. Have you been waiting long?

15, United States、男性、20代

Wassup, how you doing? Sorry I'm small kine late, never caught the right train. You like go eat or what?

16, United States、女性、20代

Hey! You will not believe what just happened to me. I was in a rush to get here and all this stuff happened and then I missed the train... what? It's only 12:05? oh, really? I thought it was much later. Well never mind then. I'm so psyched to eat out - anything other than dining hall food! Let's go! Let's go! Let's go!

17, United States、男性、20代

Hi! Sorry about being late. Let's go!

友達との待ち合わせに数分遅刻 ー日本人のコメントから

1) 日本人の謝罪(apology)は、「待たせてごめん。」というものが典型的的(typical)だったが、英語ではI hope I didn't keep you waiting so long. のような相手中心の表現があり、英語らしいと感じた。これらの違いはプレゼント渡したときに「つまらないものですが」という日本人の表現と「きつと気に入ってくれると思うな」の英語の表現の違いに似ていると感じた。

あと、お腹すいてるでしょう?とか何を食へに行く?とか、相手のことを気遣って(care; concern)、すでに視点が相手とのこれからの行動に移っているのが英語圏(English-speaking countries)の方の特徴だと感じた。

「相手」?視点の違い?

考えてみよう!

この英語を日本語に訳すと、以下のようにすれば自然に聞こえます。どんな違いがあるでしょうか。

- 1) Will you accept traveler's checks?  
トラベラーズ・チェックで払ってもいいですか?
- 2) You may keep it.  
それをあげますよ。
- 3) You can have it free of charge.  
これはサービスになっております。
- 4) You've been a great help to me.  
大変助かりました。
- 5) You're driving me crazy between the two of you.  
君たちのやっていることを見ていると、頭が変になってくる。

<チャレンジ> 訳してみよう!

- 1) Would you like me to take you home?
- 2) You can keep the change.
- 3) Let me carry your bag.
- 4) You can't do this to me!

2) 正直に言って、アメリカ人は皆、その文化的な風土として、5分程度の遅刻に対しては、「たいした問題ではなく遅刻のうちに入らない」と考えるだろうと思っていたので、彼らのコメントを見て驚いた。5分の遅刻を何でもないと考える人もいれば、相手を待たせてしまったことを非常に申し訳ないと感じる人もいるということを知った。反対に他国からはまじめと言われる日本人の方が、遅刻に対して申し訳ないとは思ってはいなかった(15、20分の遅刻なら非常に申し訳ないと感じるだろう)。これは、友達同士だったからだろう。もしこれが、仕事関係にある相手であれば、たとえ5分の遅刻になろうとも、まるで大きなミスをしたかのごとく(=ように)遅れた理由を話し、きちんと謝罪するだろう。アメリカ人は、このように人間関係が変わることで、どの程度謝罪の質量が変わっていくのか興味がある。

ステレオタイプ?

話してみよう!

- ・ アメリカ人は時間をそんなに気にしないだろうというステレオタイプ、日本人は時間に正確だろうというステレオタイプについて、これらの例はどうでしたか?
- ・ また、遅れた時間や相手が違ったらどうだったでしょうか?

<その他の前作業例>

- ①TALKPOINTのウェブサイトの Database Search（データベースの検索）や他の研究からのデータを使って、前作業用ハンドアウトを作成し、クラスで上述の要領で使う。
- ②テレビなどを使って、スピーチアクトがどのようになされているか注意を向かせてみる。
- ③学生の経験談を話させる。
- ④実際の例を見る大切さに着目させる作業をする（例えば、褒められた時の返答の仕方は否定的なものばかりではない例を提示する、等）。  
(<http://www.talkpoint.org/research/yamanaka2003.html> Appendix Bにも例あり)

<その他の本作業例>

- ①コンピュータがある教室では、クラスの時間内に投稿、ディスカッションさせたり、一緒に日本人の投稿やディスカッションへのコメントを読んだりすることもできる。
- ②投稿をした後は、掲示板によるディスカッションの代わりに、またはディスカッションを済ませた後に、例えば、オーストラリアと日本の場合など時差に問題がなければ、学生の言語能力レベルに応じてチャットルームやインターネットカンファレンスなどを使って、学生同士にディスカッションをさせる。

<その他の後作業例>

- ①学生が掲示板でディスカッションをした内容について、クラス内でさらに議論を深める。
- ②プロジェクトをした感想、気づきを報告させる。
- ③投稿されたものの中に便利な表現などがあれば、それらを使った機能的アクティビティをさせる（そのうちどれを使うかは学生に選ばせる）。

この他にも様々な可能性が考えられます。サイトを自由に応用してください。

#### 4) 相手教師との連携

##### (1) 相手教師を探す

個人的に知っている教師と連携をとることができない場合、Teacher Support Network（教師サポートネットワーク）が利用できます。ここでは、一緒にプロジェクトができる教師を探すことができるようになっています。教師用のアカウントを作成した後、自分のアカウントのホームページの一番下に、このネットワークのリンクがあります。

「Add Class Posting（新しいクラスを加える）」をクリックし、自分のクラスの情報を入力すると、募集欄にその情報が追加されます。また、すでにそのネットワークに載っているクラスに連絡をすることができます。

## (2) タイミングを計る

TALKPOINT プロジェクトを学生に家でさせる場合には、「～日までに投稿、～日から～日までにディスカッションフォーラムに少なくとも～回自分の意見を出すこと」というように、特にディスカッションは相手のクラスと同じタイミングで行うように相手教師と指示を合わせておくことにより、学生同士のスムーズなディスカッションができます。

## 5) 詳しい研究

このウェブサイトのベースとなる研究については、ウェブサイト画面下の About Talkpoint (TALKPOINT について) のリンクをクリックし、Studies Related to the Talkpoint Project (TALKPOINT に関する研究) の欄をご覧ください。

TALKPOINT プロジェクト・リーダー  
Emi Yamanaka (山中恵美)  
Preceptor in Japanese  
Harvard University  
Japanese Language Program  
Email: yamanaka@fas.harvard.edu